

8月4日(金)～7日(月)

# あきた特産市

第1会場 お土産ゾーン 14:00～21:30

市役所本庁舎前庭

第2会場 飲食ゾーン 12:00～21:30

旧産業会館跡地

きりたんぼやもろこし、秋田八丈など、秋田県内の特産・名産の食品や工芸品を各種とりそろえています。また、秋田の地酒や名物料理(旧産業会館跡地のみ)を会場内で飲食できます。

問い合わせ 秋田観光コンベンション協会  
☎(824)8686

## アトリオンフェスティバル

郷土芸能の集い＝「秋田民謡」や「なまはげ太鼓」など。8月4日(金)、5日(土)、7日(月)の3回、午後3時30分～

秋田ふるさと物産市＝8月3日(木)から17日(木)まで、午前10時～午後6時

問い合わせ 秋田アトリオンビル  
☎(836)7865

竿燈期間中と、  
10月29日までの日曜日に運行

## 秋田市観光循環バス

運行コース(主なバス停)

秋田駅 千秋公園 赤れんが郷土館前 護国神社正面 セリオン 天徳寺 ダイエー前(竿燈期間中は菊谷小路) 秋田駅

運行時間(運行間隔)

秋田駅(バス停12番線)を午前10時から午後3時まで1時間おきに発車

運賃(1日乗り降り自由券)

一般500円、小学生200円、幼児無料  
乗車券を見せると、千秋美術館、赤れんが郷土館、ねぶり流し館、佐竹史料館、セリオンの入場料が割引になります

乗車券の発売所

秋田駅バス案内所、秋田駅観光案内所、市内ホテル、アトリオン、セリオン

問い合わせ 秋田商工会議所☎(866)6674

今年も魅せます



竿燈まつりは、邪気や病魔を払う「ねぶり流し」の行事と五穀豊穡の祈願が結びつき、宝暦年間(一七五二～一七六四)に始まりました。

秋田市の原型となった久保田城下は、旭川を境に、城に近い川の東側を武士が住む内町、西側を商人や職人が住む外町と呼びました。そもそも竿燈は、外町に生まれ、庶民の知恵を出し合って育まれたものでした。

今年は、これまで千秋公園の中土橋だった昼竿燈の舞台を、通町に移します。藩政時代、七月六日(旧暦)の宵やみの頃に、各町の竿燈が通町橋のもとに勢ぞろいしていた風情が今まさによみがえろうとしています。

当時、通町橋のもとに集まった竿燈は、藩主の住む城に向かって敬意を表したのち、いつせいに立てられ、差し手は大町通りを練り歩き、川口町(旭南三丁目)方面へと下っていったといわれます。

重量五十キロにもおよぶ竿燈を、微妙なバランスを取りながら手、額、肩、腰へと乗せる妙技は、秋田市民が誇る伝統です。世界の竿燈は今年も健在です。



竿燈期間中の開館延長 竿燈期間中、佐竹史料館は午後7時まで、赤れんが郷土館とねぶり流し館は午後7時30分まで開館します。